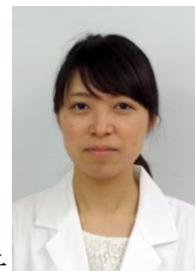


和歌山病院での実習を終えて



北内 真理子

今回、和歌山病院で2日間病院実習をさせていただきました。県内唯一の結核病棟をもつ病院ということで、主に結核の基本的な病態や感染様式、結核患者への対応も教えていただき、実際に結核病棟の見学もさせていただきました。

結核病棟では空気の流れが完全にコントロールされており、あちこちに給気口や排気口がうまく設置されていたのにとっても感心いたしました。また結核の講義の中では、空気感染と言っても飛沫核が肺胞まで到達しないと感染にはならず、他の飛沫感染、接触感染の様式をとらないというのが理論的で大変勉強になりました。空気感染といいますと、何をするのも感染対策といったイメージでおりましたので、駿田副院長の講義を受けてから病棟を実際見ると大変納得いたしました。

また南方院長の講義では胸部レントゲンの基本的な見方を教えていただきました。私は画像を見るのが好きで、本などを読んで自分で見る順番を決めてレントゲンを見るようにしていました。しかし、なぜ陰影が出るのか、なぜあるはずなのに見えていないものがあるのか、どのような位置関係にあるはずなのか、などの疑問を深く考えたことはありませんでした。南方先生の講義では、その基本的な考え方を大変わかりやすく教えていただきましたが、これをきっかけに、ここから自分で深く勉強してみようと思います。大学病院に帰ってから患者さんの異常なレントゲンを見ますと、すりガラス影、浸潤影、網状影など肺胞の構造と陰影の出方や、なんとなくで分からないことや勉強すべきことばかりです。今回の実習をきっかけにしてこれからの勉強につなげていきたいです。

勉強だけでなく、夜は南方先生に食事に連れて行っていただき、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。和歌山出身としてまだまだ本当に地元のことをよくわかっていないなと感じました。人に地元を自慢できるように、これから休みの日には和歌山を巡りたいです。

最後になりますが、南方院長、駿田副院長をはじめ、今回の実習にご協力してくださった皆さまに改めて感謝申し上げます。